「ぐんま名月」のがくあ部の裂果に収穫時期が及ぼす影響

研究のねらい

「ぐんま名月」は、食味と蜜入りの良さが近年の消費者志向と合致し、人気が高まっています。しかし、蜜入りを重視するあまり収穫時期が遅くなり、その結果、がくあ部（果実下部）の裂果といった過熟が原因と考えられる障害果の発生が問題となっています。

そこで、収穫時期とがくあ部の裂果の因果関係を明らかにしました。

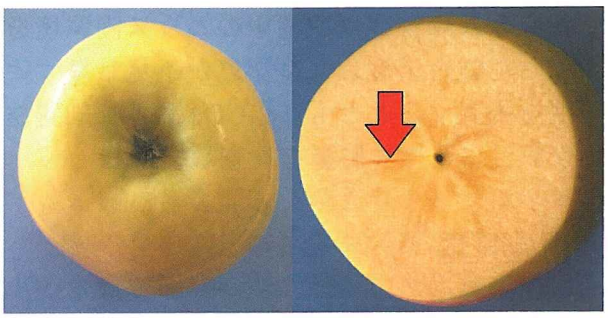

写真１　がくあ内部に亀裂が生じた果実
（左：外観、右：内部の亀裂）

技術の特徴

1　がくあ部の裂果は、満開190日後頃から発生し、210日頃には急増します（図）。

2　がくあ部の裂果は、まず内部に亀裂が生じ（写真１）、熟期が進むにつれ亀裂は拡大し、外部の亀裂へ発展します（写真２）。

3　満開200日頃には多くの果実の地色が「ぐんま名月収穫適期判定用カラーチャート」値の「６」になっており、地色「６」になった果実から随時収穫することで、裂果の混入するリスクを低減できます（図）。

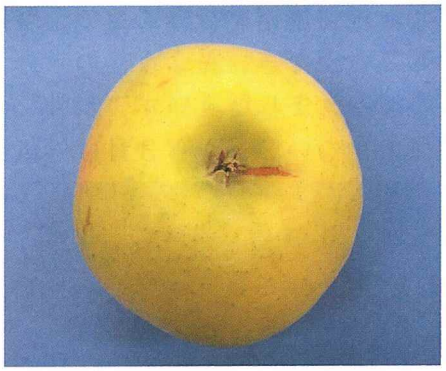

写真２　亀裂が外部に発展した果実

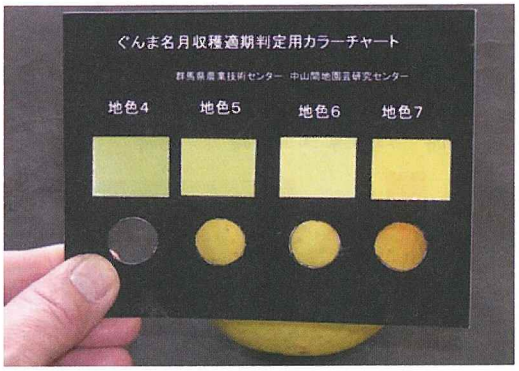

写真３　ぐんま名月収穫適期判定用カラーチャート

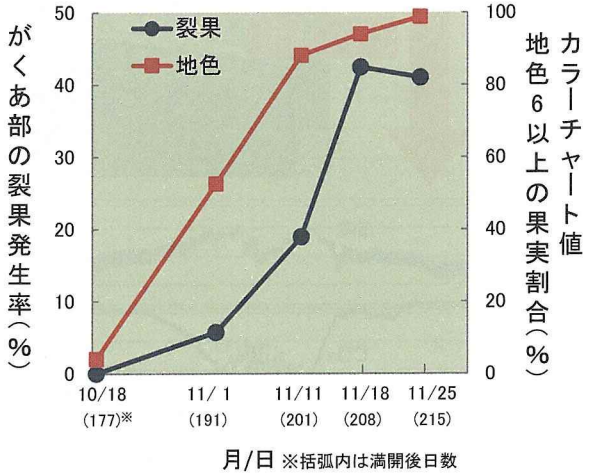

図　収穫時期と裂果および地色の関係（平成 28 年度）

今後の取り組み

講習会などを通じて裂果と収穫期の因果関係について周知し、高品質な「ぐんま名月」の安定生産を図ります。また、各種障害果発生の年次変動把握や低減技術開発に取り組んでいきます。

（執筆者：荒木　智哉）

連絡先　農業技術センター　中山間地園芸研究センター（電話 0278-22-3358）